

うるま市 うるま市地域雇用創造協議会

事例紹介

(1) 実践メニューの事業概要

(物産商品化推進事業)

うるま市の有する資源である一次産品(農水産品)を活用し、マーケティング調査(需要と供給のバランス等)市場性を踏まえたうえで、地域事業者と連携・協働・ソリューションを図り「地域連携型6次産業化」スタイルを構築していく。また、開発される“モノ”の本質性を表したパッケージデザイン開発を通じて、素朴でありながらもオリジナリティ溢れる“うるま市らしさ”を大切にしながら試作品開発に取り組んでいる。公開セミナーを経て商品化された成果物は、マスコミ・媒体へ戦略的プロモーションを図り、周知する事による消費拡大・経済効果を通じて雇用創出・拡大を目指している。

(観光商品化パッケージ推進事業)

うるま市が課題としている通過型観光からの脱却、東海岸への観光客誘客を図るために、観光資源を発掘し、地元観光関連の事業者、団体と連携し、観光イベントによる誘客の促進、観光情報の発信、新たな観光商品の開発を行う。

(2) 実践メニューでの事業実施内容

(物産商品化推進事業)**[課題]**

- ・地域資源、特に多様な農水産品を活用した特産加工品の製造(消費活動につなげる)
- ・生産した農水産物の規格外品廃棄状況の打破(生産利益向上の仕組みづくり)
- ・地元事業者が連携していない(地元企業同士の連携・協働性の構築)

[マーケティング調査]

基本的に、県内、県外の方々を対象にしたマーケティング調査を実施。

まず、第一段階として、共同開発事業者確定前に、活用する農水産品を試食いただきながらのイメージから、それをどのような商品に加工(開発試作品)すると良いかをリサーチ。

第二段階では、一番多かった加工品(開発試作品)について「大きさ(容量)」「価格帯」「味の方向性」をリサーチ。最終段階では、共同開発事業者と製造した試作品(3~5種程度)を用いての試食モニター調査を実施し、集計結果、回答内容の分析をもって試作品最終決定のエビデンスとする。

[商品開発]

当協議会の試作品開発のあり方についての考え方は次の通りとして考えている。

- ・スタッフだけの素人の主観的な発想で企画を進めない→マーケティング調査の重要性
- ・地元のプロの方々との意見交換しながら試作品開発を進める→地元事業者と連携と継続性
- ・販路先を意識した試作品開発→試作品本体、パッケージデザイン、販促物の創造性

[販路開拓]

マーケティング調査の結果からターゲット像を想定、意識し、そこに届けるための流通方法・形態を鑑みたくて、公開セミナー後、商品化いただく事業者と販路先を検討していく。

開発した試作品に活用する原料（農水産品）の供給量に見合う販路を検討することも重要である。

[PR]

開発した試作品を公開セミナー後、商品化・販売に至るまでの期間に、マスコミ、情報媒体に対して、ニュースリリースを情報発信し、プロモーションを図る。特に地元ローカルTV、新聞、情報誌、webサイトに関しては先方担当者とコンタクトが取れるまでアプローチを続けた。ここで重要なのは「商品広告」としてではなく「地元から発信する、旬な記事、ユニークな記事、社会性のある記事」として情報を届ける事である。

[公開セミナー]

当協議会の実施した公開セミナーは、声掛け、案内する参加者を実際に試作品を商品化・販売の可能性のある事業者に絞り込み実施した。

これまでには、試作品を共同開発した事業者や、本事業に主旨賛同いただける事業者によって商品化されている。（津堅にんじんロール×4店舗、もずく天ぷら×1社（準備中））

[実施に当たっての苦勞等（実施体制面、事業者の協力確保、事業性の確保等）]

- ①本市ならではの商品開発スキームの構築
- ②試作品共同開発いただく協力事業者の確保
- ③試作段階でリサーチによる意見・提言等をパティシエに聞き入れてもらう事
- ④公開レシピ提供への協力
- ⑤パッケージデザイン開発
- ⑥公開セミナー後、試作品を商品化する事業者の確保

[今後の実施予定]

当協議会最終年度である26年度事業は、「もずく」を活用した惣菜を3種類、「黄金いも」を活用した菓子を2種類、試作品を地元事業所と共同開発（連携型6次産業化スタイル）で進行中である。

また「津堅にんじんロール」においては、10月上旬現在、試作品を共同開発した「プティフル」以外に市内菓子店3店舗から商品化に至った。11月には新規でもう1店舗から商品化される予定で市内に拡がりつつある。これら店舗では、協議会雇用創造事業へ主旨理解いただき、廃棄品のにんじんを活用するというコンセプト、一定のルールを遵守いただくものとして、公開されたレシピを基本にした、各店舗の特徴を活かしたオリジナルの「津堅にんじんロール」が誕生している。

今後は市内外から本市へお越しいただく強力な誘客ツール「ご当地スイーツ」として、新たにプロモーションを図り、更なる発展を続け、最終的には市内10店舗で販売、全店舗トータルで年間1千万円の売上を目標に、これまで廃棄されていた津堅にんじんの消費拡大、生産者利益向上、ケーキ製造・販売店舗の売上拡大を通じて雇用創出・拡大、地域活性化を目指すものとする。

●試作品マーケティングリサーチ、モニタリング風景



●商品写真（本体・リユースボックス・風呂敷・リーフレット・はがき）



●公開セミナー風景



●試作品会議風景



(観光商品化パッケージ推進事業)

主として、うるま市の工芸作家を中心とした展示販売を行う「暮らしにアート in 伊計島～おきなわ作家市～」の開催を通して、地域事業所の物産販売、手づくり体験や店舗への誘導消費拡大企画などを行い、雇用創出に向けた観光誘客と経済の活性化への仕組み作りを行う。

[課題]

- ・ 通過型観光からの脱却（入域客の消費活動を誘う仕組み作り）
- ・ 知名度の低さを改善（足を運ばせるきっかけ作り）

[マーケティング調査]

数年来、手づくり品、工芸品を扱った大小様々な販売会が県内で広がりを見せ、幅広い層の集客実績があることに着目し、実際に販売会へ足を運び、関係者からヒヤリング等も行った。また、大量生産対象消費からの回帰現状ともみられる手づくり品へのニーズの高まりも雑誌、SNS等の情報から得られた。

県外でも工芸・クラフト関連の催事はここ数年盛んに行われ、長野県松本市で行われるクラフトフェア松本では2日間で約5万人を集めるほどの集客力を持っている。これらの情報から、十分にニーズ、誘客力はあると考えた。

[実施にあたり]

工芸品販売企画では、雑誌、ネットでの調査から知り得た工芸作家を1件1件訪ね、その工芸作家から新たに紹介推薦してもらうなどして、声掛けを行った。

物産販売に関しても、徐々に作っていたネットワークを活用し、事業所や個人を訪ね、情報収集や意見交換を行い、販売への参加を呼び掛けていく地道な作業を行った。

消費拡大企画については、それまでに日々の地域情報を収集していた中から、店舗候補を選定し声掛けを行っていった。

宣伝活動は県内メディア（テレビ、新聞、雑誌、ラジオ）へのニュースリリースの発信と個別問合せ等から多くの取材を取り付け、低コストでの広報を行った。県内主要機関へは郵送でポスター・チラシを配布し、またレンタカー協会、ホテル組合等機関にも協力を依頼し、無償でのチラシ設置を行っていただいた。

[実施に当たっての苦労等（実施体制面、事業者の協力確保、事業性の確保等）]

事業をスタートして半年ほどした段階から本格的な企画準備に入ったが、当初は工芸関係の人脈も知識もない状態で、一定程度の工芸作家と面識を持つまでは本当にこの企画が実施できるのかさえ不安であった。だが、徐々に人脈を広げることができた。

物産販売に関しても、当初はこのような催事への参加を経験していないこと等を理由に参加をためらう地域の方も多く、また我々の事業への理解もまだ浅かったため、理解と協力を得るのに忍耐強く、地道にコミュニケーションを図り、関係性を築いていった。

事業所への消費拡大企画についても、売上の向上が十分に見込めるとまでは言えない企画内容のまま実施にふみきったことから課題も多く残ったが、逆に今後活かせる経験となって実施の意義は十分にあったと考える。



出展作家説明会(企画公開セミナー)



消費拡大企画説明会（企画公開セミナー）

(3) 事業の実施結果・成果

(物産商品化推進事業)

公開セミナー後では「津堅にんじんロール」を製造販売に取り組む事業所が4店舗に拡大し、1店舗が参画予定。本市で楽しめる三者三様な味の「津堅にんじんロール」として『ご当地スイーツ』に成長を続けている。

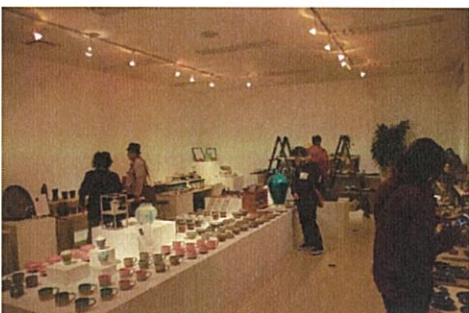
津堅にんじんロールの他、津堅にんじんチーズタルト、津堅にんじんゼリー、冷凍もずくかき揚げ天ぷらの商品を開発し、生産者と製造事業者の収益拡大、4名の雇用創出につながった。また、特産品ガイドブック製作では、デザイン会社で2名の新規雇用につながっている。

(観光商品化パッケージ推進事業)

実施ノウハウ（実施マニュアル）、実施後の検証結果等（来場者アンケート分析）、売上分析等。それらは各企画への参加者へ実施後に配布を行っている。

アウトカムとしての数字面では販売に参加したことをきっかけに創業を開始した工芸作家が2名出た。ただ、それ以外に波及的に発生した効果としては、近隣のパン軽食販売店が催事期間中、商品が売り切れるほどの来店者があり、それを機会にその後の誘客イベントの時期にアルバイトを雇用するなどの状況が生まれた。

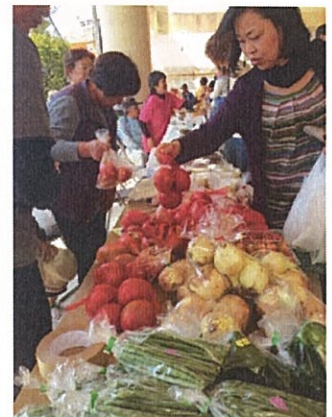
また、これまで物産販売に参加したことなかった地域の方がこの催事をきっかけに観光客への惣菜販売を近隣の観光施設で始めたという創業の事例も生まれた。



工芸品展示販売会場



手作り体験（市内作家とんぼ玉制作）



地域物販

贈り物にも自分ご褒美にも。
おきなわのてみやげ



うるま市特産「黄金芋」を使った「うるまの埋蔵金」1個136円6個入980円、金塊風のウィットに富んだパッケージ。

プティ・フル石川店
☎098-965-4702

プティ・フルみどり町店
☎098-972-3575

プティ・フル江洲店
☎098-973-5784

営業時間 9:00～21:00
休/年中無休
P/あり



津堅にんじんロール1050円。石川店、江洲店、みどり町店の3店舗にて販売。

作る、贈る、もらう。みんなハッピーなロールケーキ

うるま市の溢れんばかりの魅力を様々な方向からアピしようとして開発されたとおきなわのロールケーキをご紹介します。ミネラル豊富で高い糖度を誇る津堅にんじんを、素材の風味そのままにパウダークリーム製造にし、もちもち食感の米粉スポンジカスタードクリーム、ムクセンの白あんすべてに練り込んだままにオンリーワンのご当地スイーツです。特有の臭みはなく自然な甘さで、人参が苦手な方や小さいお子様もきつと喜んでくれるはず。

さらに初回限定パッケージの化粧箱とうさぎ柄の風呂敷はうるま市在「mono box」株式会社制作、総合プロデュースをうるま市地域雇用創造協議会地域活性化プロモーション委員会。手土産としてはもちろん、自分用にも欲しくなっちゃうレアもの。プティフル各店舗にて数量限定販売です！

プティ・フル

津堅にんじんロール

1,050円



かわいい、おいしい、エコなスイーツ。 うるま市の「津堅にんじんロール」

津堅島産のにんじんをパウダーに加工して、風味がほのかに感じられるクリームをスポンジ生地包み込み、にんじん餡をアクセントにしたかわいいロールケーキが誕生しました。利用価値を見い出せずに廃棄処分されてしまう規格外品のにんじんを活用しようと、うるま市内の4つの事業所がチームを組んで開発。にんじん嫌いな子にも食べてもらえるようにと、うれしい工夫が詰まっています。うるま市内のプティフルで販売中。



初回3000個の限定パッケージ
うさぎをモチーフにした
風呂敷 リユースボックス
ポストカード付



スポンジ生地には米粉をブレンド、もっちりとした食感です
価格は1050円、販売はプティフル各店にて



原料のにんじんパウダーは、津堅島の農業生産法人合同会社萌芽が供給、製造販売は(有)プティフル、包材などのデザインはmonobox(株)、総合プロデュースはうるま市地域雇用創造協議会(地域活性化プロモーションうるま)

問い合わせ先 プティフル
うるま市石川店 ☎098(965)4702
みどり町店 ☎098(972)3575
江洲店 ☎098(973)5784

2013年(平成25年)5月23日 木曜日

沖縄タイムス

にんじんロール食べに来て

津堅島特産ケーキ開発

【うるま】市津堅島の特産品である「津堅にんじん」を利用した「津堅にんじんロール」が20日、市内限定で販売を開始した。同商品を共同開発で手掛けた、地域雇用創造協議会地域活性化プロモーションうるまの統括マネジャーの中村薫さんは「うるま市に菜食の味を味わえない味、ぜひ足を運んで食べてほしい」と呼び掛けた。



うるま市内で限定発売 「風味も味も」自信作

同商品は、市の特産品を活用して市内事業所で商品を開発し、市内限定販売を行うことで、観光客の誘客や地域産業を活性化させることが目的。同協議会が市内事業所に呼び掛け、同協議会と市内3社で共同開発した。

農業生産法人・萌芽が販売するにんじんパウダーを使用し、洋菓子店のプティフルがロールケーキに仕上げた。初回限定生産の3千個は、monoboxが手掛けた再利用可能な容器に入れ、同社デザインの風呂敷で包んで販売する。販売は浦田、プティフルの市内3店舗のみで行う。価格は1個千円。

中村さんは「包装はかわいいらしいデザインでお土産にもぴったり。合成着色料なども使用していません。にんじんの風味も残しつつ、にんじんが苦手な子どもでも食べやすい味に仕上がった」とアピールした。

「にんじんロール」をPRする(左から)地域活性化プロモーションうるまの久高史也さん、中村薫さん、仲地健さん(沖縄タイムス中部支社)

パッケージ
事業

「健康・長寿・美」と「IT津梁パーク」による雇用創出
～環金武湾振興QOLプロジェクトでグッジョブ～

実現事業

高付加価値型モノづくり産業集積・活性化推進事業

実践型事業

うるまの産業を育てる人づくり
～戦略的な新産業の創出による雇用・就業機会の充実～

1 地域の特徴及び事業の概要

うるま市

うるま市は沖縄本島中部に位置し、人口約11万人、東に金武湾、南に中城湾を臨み、有人、無人を含め8つの島々があり、これらの島々と本島を結ぶ海中道路や風光明媚な自然景観により多数の観光客を集めている他、中城湾港新港地区では情報通信産業の集積や特別自由貿易地域への企業立地が進んでいる。厳しい雇用状況の中、求人・求職のミスマッチ解消の為、求職者のスキルアップや求人の多い業種の人材育成、また観光産業振興を図り、雇用状況の改善を目指す。



海中道路

ポイント

- 情報通信産業の推進による雇用拡大
- 生活関連産業(観光と健康)の活性化

地域の特徴

人口	H17 113,535人			H22 116,979人	
労働力人口	H17 51,034人			H22 52,329人	
有効求人倍率 (新規卒業者を除きパートを含む)(倍)	H21	H22	H23	H24	H25
	0.22	0.25	0.22	—	—
産業構成(就業者数)	第1次産業		第2次産業		第3次産業
(平成17年度国勢調査)	2,429人		9,772人		31,146人
(平成22年度国勢調査)	1,814人		8,076人		29,626人
産業振興において重点的に取り組んでいる分野	■製造業 ■情報通信産業 ■農林水産業 ■観光産業				

事業の概要

協議会名	うるま市地域雇用創造協議会
協議会の主な構成団体	うるま市、うるま市商工会、うるま市観光物産協会、特定非営利活動法人ぶらぶら(財)沖縄観光コンベンションビューロー
委託費総額	〈パッケージ事業〉509,710(千円) / 〈実現事業〉75,950(千円) / 〈実践型事業〉322,565(千円)

	パッケージ事業	実現事業	実践型事業
事業実施期間	平成21年度～23年度	平成21年度～23年度	平成24年度～26年度
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信産業を担う人材育成事業 ■健康・長寿・美容産業を担う人材育成事業 ■製造業を担う人材育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> ■3次元CAD/CAE普及支援事業 ■3次元試作モデル作成支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信産業を担う人材育成事業 ■健康・長寿、観光等生活関連産業を担う人材育成事業 ■観光物産商品の開発、観光体験プログラム等の検証

